バス再興　10年ビジョン

（中間とりまとめ）

2024年6月

公益社団法人　日本バス協会

バス再興　10年ビジョン

日本バス協会
2024年6月

バスは人々の生活や地域に無くてはならないサービスであり産業である。我々はこれまで人々の移動と地域の基盤づくりを支える努力を続けていることを誇りにして、バスが輝く時代にしていきたい。

一方、現在バスは、コロナ禍、燃料高、2024年問題による運転士不足など深刻な状況に直面している。少子高齢化による輸送人員の減少が続く中で今回のコロナ禍により決定的なダメージを受け、需要は元に戻ることはなく、エッセンシャルな事業でありながら維持が一層困難になっている。このままでは生活に密着したバス交通が消えゆくことになりかねない。

少子高齢化、人口減少、子育て支援、交通空白地域への対応といった顕在化する課題に対応し、持続的にサービスを提供していくためには、利用者や地域とともに一層の利用拡大や観光を含めた新たな需要創出に取り組むとともに、交通政策基本法の理念に基づき、国が地域とともに支援を強化する必要がある。また、デジタル技術を活用し、まちづくりや他の輸送モードとも連携しつつ、バス事業者が地域における総合的な交通サービス提供主体の中核となることも求められる。

こうした状況変化のもと、安全を第一としバスを夢のあるプライドある産業として、さらに輝く時代になることを目指し、「バス再興 10年ビジョン」を策定する。

バス再興　10年ビジョン

日本バス協会
2024年6月

「バスを夢のある産業に」
バスが走って人々の生活や地域を支え続けていることは我々の誇り
夢のあるプライドある産業として、バスがさらに輝く時代を作る

安全安心なバスの実現	● バス事業者が先端技術の活用などにより更なる安全への取組を強化する ● 貸切バス事業者安全性評価認定制度の活用などで不適格事業者を解消させる ● 一般ドライバーのほかバイク・自転車利用者や歩行者などへ幅広くバス運行の交通ルールの理解・遵守を呼びかける ● 道路やバス停留所の改修・整備により運行環境を改善する
地域総合交通産業として維持発展	● 利用者理解のもと、適時適切な運賃改定を行い、事業基盤の強化に努める ● まちづくりや他の輸送モードとも連携しつつ利便性向上を図り、持続可能な地域公共サービス提供主体の中核を担う ● その支援を国が自治体とともに強化するよう求める ● 観光バス・乗合バスの新たな需要創出によりバスの活躍の場を拡大させる
人材確保と働き方改革	● 運転士・整備士など従業員の待遇改善による採用・定着を図る ● 若年層や女性、外国人の採用を促進する ● 運転士の高度な運転技量を広くPRしイメージアップにつなげる ● 従業員へのカスタマーハラスメント防止など働く環境を改善する
次世代のバス輸送への転換	
EVバスなどの普及で環境へ貢献	● 国産EVバスのほか、FCVバスなどクリーンエネルギーバスの供給を充実させるとともに、変電・充電設備などインフラの充実を図る ● カーボンニュートラル実現に向けた取組への国や自治体の支援強化を求める
自動運転の本格化	● 実験段階から本格運行へ進め、2030年には路線バスでの自動運転を普及させる ● 自動運転においても、安全・安心確保の面で人の役割は重要である
完全キャッシュレス化の実現	● 現金とキャッシュレスで運賃に差を付けるなど実現に向けた環境整備を行う ● キャッシュレスを推進し、2030年には「運賃箱の無いバス」を本格的に普及することにより、運転士の負担軽減とともに事業者のコスト軽減を図る